

はじめに

本書は、科学研究費補助金基盤研究 (B) 「社会教育・福祉・コミュニティ支援を統合するシステムと理論、専門職形成の比較研究」(研究代表者・松田武雄、2015-2017年度)において調査研究してきた成果のまとめである。この間、研究課題は異なるが、その底流にある本質的な問題意識は継承して、10年間共同研究してきた。最初は、基盤研究 (B) 「社会教育・生涯学習の再編とソーシャル・キャピタルに関する実証的研究」(研究代表者・松田武雄、2008-2010年度)、次に基盤研究 (A) 「コミュニティ・ガバナンスと社会教育福祉システムの構築に関する欧米とアジアの比較研究」(研究代表者・松田武雄、2011-2014年度)、そして今回で計10年にわたるプロジェクトである。8割ほどのメンバーは固定して、2割ほどのメンバーがそのつど変わってきた。そして、それぞれの基盤研究の最後にまとめとして、『社会教育・生涯学習の再編とソーシャル・キャピタル』(2012年)、『社会教育福祉の諸相と課題』(2015年、いずれも大学教育出版)を出版した。まずは、10年間にわたる共同研究を支援して頂いた学術振興会に感謝申し上げるとともに、共同研究者の皆さんにお礼申し上げたい。

特に基盤研究 (A) では、予算が潤沢に措置されていたことにより、毎年、国際会議を開き、私たちの研究課題のキーワードである Social Pedagogy についてヨーロッパの研究者と討議できたことが大きな成果であった。中でも、科研費のメンバーがほぼ全員ドイツに行き、ドイツで大きな国際会議を開催できたことは、Social Pedagogy の研究にはずみをつけることができた。私たちが10年前に Social Pedagogy の研究を細々と始めた頃に比べると、現在、その研究の広がりや隔世の感がある。欧米の多くの研究者とネットワークをつくることができ、日本の Social Education も、ヨーロッパの Social Pedagogy の領域で少しずつ認知されてきた。2018年2月にはメキシコで、International Conference Social Pedagogy and Social Education が初めて開催され、世界

の Social Pedagogy と Social Education の研究者が一堂に会して、国際学会が盛大に行われた。私たちの科研費メンバーから4人が発表し、研究交流ができた。

さらに、欧米だけでなく、アジアにおいても社会教育と福祉と地域づくりをつなぐような実践と研究が行われており、韓国、中国、ウズベキスタン、香港、東南アジア諸国の研究を行い、『社会教育福祉の諸相と課題』では多彩な比較研究をおこなっている。このような比較研究から、日本の社会教育発展への示唆を得ることができるものと考えている。

しかし、私たちのプロジェクト研究では、日本の厳しい社会教育の現状を直視し、その現状を打開できるような研究を行うという点では弱かったと言わざるをえない。本書でそれがどこまで探究できたのか、自信はないが、多少なりとも示唆を提示できれば幸甚である。

本基盤研究は、本来、2018年度まで継続する予定であったが、新たな科学研究費基盤研究(B)「社会教育・福祉・予防医療の連携とコミュニティ・エンパワーメントの実証的比較研究」が採択されたため、2017年度でひとまず終了することになった。メンバーが大学で管理職等多忙な職に就くようになり、計画していた通りには研究が進まなかったが、社会教育専門職研究の今日的な重要性に鑑み、今回もまとめの単行本を出版することにした。皆さん極めて多忙な中での出版であり、綱渡り状態であったが、メンバーの協力で何とか出版にこぎつけることができた。

社会教育専門職といっても、日本の文脈では公民館主事に焦点化し、社会教育主事等他の専門職にはほとんど言及していない。本書のテーマである「社会教育と福祉と地域づくりをつなぐ」という観点からすると、地域に根づき、その専門性が多様性を有する公民館主事が、最も柔軟にこの機能を創造的発展的に担うことができると考えたからである。そして関連して、コミュニティにおける支援者、韓国・中国・スウェーデンの専門職の動向と、カナダの難民支援スタッフ、ウズベキスタンの地域リーダーについて考察している。現在の社会教育関連職員の可能性を考える上では、甚だ不十分であることは承知しているが、私たちの3年間にわたる研究の成果として一応の区切りとすることにした。

しかし、本研究の問題意識はこれで終わるわけではなく、新しい基盤研究の研究課題に引き継いで継続していく。とはいえ、この間続けてきた共同研究は、今回の基盤研究を持って終了する。最後に、社会教育概念の新たな構築につながるような理論的考察を図るべく努めたいものだと考えている。

今回も、本書を出版するにあたり、大学教育出版の佐藤守社長に大変お世話になりました。感謝申し上げます。また、本書の編集作業を、名古屋大学大学院生の大村隆史さんにしていただきました。ありがとうございました。

2019年3月

松田 武雄

社会教育と福祉と地域づくりをつなぐ

— 日本・アジア・欧米の社会教育職員と地域リーダー —

目 次

はじめに (松田 武雄) …i

序章 社会教育と福祉と地域づくりをつなぐ社会教育関係職員
..... (松田 武雄) …I

はじめに 1
1. 社会教育と福祉と地域づくりの関係性 4
2. 社会教育と福祉と地域づくりをつなぐ社会教育職員の専門性 6
3. 松江市における社会教育と公民館主事の専門性の構造 10
4. 海外の社会教育関係職員との比較—スウェーデンと韓国の場合— 13
おわりに 16

第1章 地域・公民館における社会教育と社会福祉の連携・協働
— 公民館地域アセスメントを手がかりに — (上野 景三) …19

はじめに 19
1. 国のコミュニティ政策の動向 20
2. 地域コミュニティにおける公民館の可能性と役割を探る
— 公民館地域アセスメントを手がかりに — 28
(1) 地域課題解決と公民館との関係 28
(2) 公民館における連携と侵食 29
(3) 地域アセスメントと公民館 31
3. 各領域にみる地域アセスメントの手法 32
(1) 公衆衛生学 32
(2) 地域福祉学 34
(3) 地域政策関連領域 36
(4) 公民館学と地域アセスメント 37
(5) 公民館と関連領域をつなぐアセスメント 38
4. 公民館地域アセスメントの開発にむけて 39

第2章 暮らしづくりの支援における価値とその意義 …… (宮崎 隆志) …42

はじめに 42

1. CRISP モデル 43
 - (1) Social Pedagogy の実践像 43
 - (2) 創造的活動の意義 44
2. 支援者に求められるもの 47
 - (1) 支援者とは 47
 - (2) 「表現できる場」をつくる 47
 - (3) 差異を際立たせる 48
 - (4) フラットな関係を維持する 49
3. アニマシオンという価値 50
 - (1) 実践の方向性を規定するもの 50
 - (2) 暮らしを享受する 51
4. 楽しさの再生産の保障 52
 - (1) 楽しい活動 52
 - (2) 支援者の学び 53

おわりに 54

第3章 松江市公民館体制における地区社会福祉協議会の位置

— 地域基盤の変動と職員制度の発足に着目して — … (丹間 康仁) …57

はじめに 57

1. 松江市の公民館体制と社会福祉協議会 58
 - (1) 松江市における公民館の設置と運営 58
 - (2) 松江市における地区社会福祉協議会の発足 60
2. 松江市における公民館と福祉の融合 62
 - (1) 松江市の公民館と社会福祉協議会を捉える視点 62
 - (2) 公民館と社会福祉協議会の関係に対する提起 63
3. 松江市公民館体制の成り立つ地域基盤 65
 - (1) 住民参加の公民館運営と地域福祉の展開 65

- (2) 地区の事務局が集約された公民館 66
- 4. 松江市公民館体制をめぐる新たな展開 68
 - (1) 市町村合併にともなう「松江方式」への移行 68
 - (2) 松江市公民館社会教育主事制度の発足 71
- おわりに 74

第4章 「金沢方式」のもとで培われる公民館職員の専門性

— 公民館・町会連合会・地区社会福祉協議会の関わりに注目して —
 (大村 隆史) …78

- はじめに 78
- 1. 金沢市の公民館制度の沿革 79
- 2. 公民館の運営基盤としての「金沢方式」 81
 - (1) 「金沢方式」の概要と特徴 81
 - (2) 専門職の形成と「金沢方式」の可能性 84
- 3. 公民館運営における町会連合会と地区社会福祉協議会の位置 85
 - (1) 町会連合会 85
 - (2) 地区社会福祉協議会 88
- おわりに 90

第5章 韓国における教育福祉と平生教育関係職員 …………… (李 正連) …94

- 1. 教育福祉論の展開 94
- 2. 教育と福祉と地域づくりをつなぐ平生教育関係職員 96
 - (1) 平生教育士 96
 - (2) 文解教員 99
 - (3) 教育福祉士 100
- 3. 地域基盤型教育福祉を支える教育福祉士の実践 — ソウル市の取り組み
 に着目して — 102
- 4. おわりに 106

第6章 社区教育と地域づくりをつなぐ中国社区教育職員の可能性

..... (肖 蘭) …110

はじめに 110

1. 社区教育とは何か 111

2. 社区教育職員の役割 113

 (1) 社区教育施設の機能と職員の役割 113

 (2) 政策にみられる社区教育職員の資質 115

3. 上海市における社区教育職員養成の現状と課題 117

 (1) 大学における社区教育職員の養成 118

 (2) 社区学院における社区教育職員の養成 121

 (3) コミュニティ・ワーカーとしての社区教育職員 123

おわりに 125

第7章 ウズベキスタンにおける社会教育・福祉・地域づくりをつなぐ地域

リーダーの現状と課題 (河野 明日香) …129

はじめに 129

1. ウズベキスタンにおける社会教育、生涯学習、成人教育に関わる法制度、
政策の現状 130

2. 独立後における福祉の現状と制度、政策 132

3. マハッラおよびマハッラ運営委員会による教育と福祉 134

 (1) マハッラとは何か 134

 (2) マハッラおよびマハッラ運営委員会の構成と活動、機能 135

 (3) マハッラを基盤とした教育と福祉の仕組み 135

4. マハッラ運営委員会の活動にみる地域リーダーの役割 137

 (1) A マハッラにおけるライースおよびマハッラ運営委員会の活動 137

 (2) マハッラの地域リーダーの役割・性質と専門職の制度形成 140

おわりに 141

第8章 カナダにおける難民支援とスタッフの養成— 難民研究センター・サマーコースの分析をもとに— …… (藤村 好美) …145

はじめに 145

1. 世界の難民問題とカナダ 146
2. ヨーク大学難民研究センターの概要と活動 148
 - (1) 概要 148
 - (2) 教育プログラム 148
 - (3) プロジェクト 149
3. CRS サマーコース 150
 - (1) サマーコースの経緯 150
 - (2) 2018 CRS Summer Course on Refugees and Forced Migration (難民と強制移動に関するサマーコース) の記録 151
4. まとめに代えて 165

第9章 スウェーデンにおける Social Pedagogue による伴走的支援

— 依存症成人支援事業を対象に — …… (松田 弥花) …168

はじめに 168

1. Social Pedagogue に求められる能力 169
2. 依存症成人支援事業にみられる「自立」 170
 - (1) 依存症成人支援事業の概要 170
 - (2) 「依存」と「自立」 171
 - (3) 「依存から自立」とは 172
 - (4) ソスベッドによる実践の構造 174
3. 「依存から自立」へのプロセスに対するソスベッドの関わり方 175
 - (1) 第1段階：関係性構築 175
 - (2) 第2段階：ニーズ把握 178
 - (3) 第3段階：調整的挑戦 180

おわりに 182

索引..... 185

執筆者紹介.....188